

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：建築学科

資格：教授

氏名：松下 聡

研究分野	研究内容のキーワード
建築計画	建築プログラミング、ファシリティ・マネジメント、フリーアドレス、学校建築
学位	最終学歴
工学博士	Rice University, School of Architecture

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 研究室のフリーアドレス化	1996年4月1日2017年3月31日	建築計画系研究室の座席を固定せず、自由に選択できるフリーアドレスシステムを導入し、その成果及び調査から計画案作成、事後調査に至るプロセスを教育に取り入れている。
2 作成した教科書、教材		
1. 建築計画分野に関する教材作成	2018年3月31日	建築計画に関する理論及び実例をまとめてPowerPointデータ及びWord文書の作成
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 建築設計実務経験	1992年4月1日2017年3月31日	福井大学施設及び福井県内各種施設の設計
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 一級建築士（第184771号）	1985年1月20日	一級建築士の試験に合格し、1985年1月20日に登録した。
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 建築設計実務	1992年4月1日2017年3月31日	福井大学施設及び福井県内各種施設の設計
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 改修による建築の再利用	単	2013年11月	建築設計福井	大学施設や工場の建物を改修して有効に活用している事例を紹介してその使い方を解説し、改修による有効活用の手法と効果を示している。ここで紹介している最初の事例は、コーネル大学の図書館の古い建物を残し、地下に増築した例である。次の例は、コーネル大学のビジネス学部の校舎を増築し、それによりできた中庭に屋根を架けて、3階まで吹き抜ける大空間をカフェテリアとして使用している例である。最後の例は、ニューヨークの近代美術館を建替工事中に、郊外のクイーンズに古い工場を改修して近代美術館として用途変更して使用している例である。
2 学位論文				
1. 群集歩行における探索及び待ち行動のためのシミュレーションモデルの建築設計論的研究	単	1991年6月	京都大学工学博士（論工博 第2496号）	建築空間における探索及び待ち行動に関して実験及び観察を行い、それに基づいてシミュレーションモデルを作成し、具体的な建築物平面上のシミュレーション例を示すことによりモデルの妥当性及び有効性を実証している。これにより、建築設計において空間と人間行動との関係を把握する手段として、群集歩行シミュレーションモデルの有効性について論じている。
3 学術論文				
1. 大学の建築計画系研究室における部分的フリーアドレス化による空間の有効利用	共	2002年7月	日本建築学会計画系論文集	この研究では、大学の建築計画系研究室において空間の有効利用および作業環境の向上を達成した改修プロセスについて報告し、そのプロセスで用いた方法の有効性を立証した。研究室の改修は、写真調査及びブレインストーミングによる問題発見、研究室のレイアウト及び作業・行為の実態調査、事前評価、改修課題作成、改修実施、事後評価と言うプロセスで実施した。研究室の改修では、固定した個人席の数を減らし、フリーアドレスの共同利用スペー

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				<p>スを導入した。事後評価では、改修前と比較して大幅に評価が向上し、このプロセスで用いた方法の有効性が確認された。</p> <p>使い方調査、改修課題設定、事後調査を担当。調査のプロセス設定、改修案作成、評価方法の設定を共同。</p>
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
<p>1. Behavior of Students in a New Type of Junior High School in Japan</p>	単	2012年7月	<p>Proceedings of The Second International Conference, Archi-Cultural Translations through The Silk Road</p>	<p>2008年4月に移転新築した福井市至民中学校に関して、休憩時間の生徒の居場所、授業中のグループ活動やアクティブラーニングなど、生徒の行動や授業の進め方などを通して、建物使われ方を調査分析した。それにより、ここで導入した異学年型教科センター方式とそれに伴う教室、オープンスペース、教員室、ホームベースなどの空間構成の効果を確認した。</p>
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			